

固形培地耕栽培に対応した病害虫防除対策技術の確立

○実施期間：令和3～5年度

○担当部署：病理昆虫部

(共同研究機関：岐阜大学、岐阜クリーン農業研究センター)

○区分：地域密着型研究費（県単試験調査費）

○研究内容

県内のトマト産地では、土壌病害回避、多収化等を目的に、独立ポット耕（冬春トマト産地）や3Sシステム（夏秋トマト産地）といった土の代わりに専用培土と肥料分を含んだ養液を用いて栽培する「固形培地耕」の導入が進んでいます。

これらの導入施設では、生産経費および労力軽減のため培地の複数年使用の要望が強いものの、土壌病害の発生リスクが高くなることが懸念されています。また、一部の導入圃場では、生育不良、萎れなどの症状が発生しており、土壌病原菌が関与していると考えられる事例が確認されています。そこで、本研究では、これらの栽培方式で発生する萎れや生育不良について、病原菌の同定や発病要因の検討を行うとともに、培土を含むハウス内全体を消毒できる技術として期待されるカーバムナトリウム塩液剤の固形培地耕における処理方法を検討しています。

開発する技術

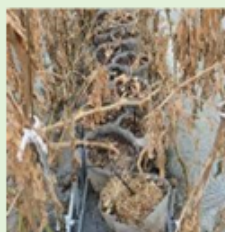
①萎凋症状の原因と対策技術



- ・病原菌の同定
- ・病原性確認
- ・発病要因
- ・防除対策

②カーバムナトリウム塩液剤による施設内の総合殺菌技術

栽培終了時に希釈薬剤を灌水チューブで流し、ハウスを数日間密閉するだけ



- ・培地の連用が可能に
- ・栽培資材を隅々まで殺菌
- ・施設外へ病原菌・害虫を持ち出さない

- 処理方法の確立
- ・適正処理量、期間
- ・殺菌効果
- ・薬剤の挙動解析

新栽培システムにおける安定生産を実現！